

令和 6 年 5 月 6 日現在

機関番号：24302

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13100

研究課題名（和文）疫病の動態よりみたる社会構造の研究 古代日本を中心に

研究課題名（英文）Research on social structure from the perspective of epidemic dynamics

研究代表者

本庄 総子（HONJO, Fusako）

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：40823696

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、疫病の動態を分析し、以て発生・流行地域における社会構造上の特徴を明らかにしようとするものである。分析対象としては日本古代を中心としつつ、日本の中世以降や諸外国の事例も参照することで、比較史への応用も図っている。年間を通じた疫病発生時期の分析からは、当該社会における産業構造との相関性が浮き彫りとなった。また、八世紀から九世紀にかけての通時代的な疫病の発生状況を確認し、多発時期を抽出した結果、疫病発生と古代国制とが如何なる関連性を有していたのかについて、その実態を政策の推移に即して明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本古代における疫病の特徴を項目立てて提示することによって、疫病の比較史的分析への応用を可能とした。また、その成果を著作（歴史文化ライブラリー『疫病の古代史』単著、吉川弘文館、2023年）、古代史をひらく2『天変地異と病』共著、岩波書店、2024年）や講演等で発信した。コロナ禍の経験を経て、疫病は現代社会においてもなお今日の問題であり続けていると認識されるようになり、疫病への社会的な興味関心は高まっている。本研究はこうした動向にも応えることで、社会的責任を果たすものである。

研究成果の概要（英文）：This research aims to analyze the dynamics of epidemics and clarify the social structural characteristics of outbreak/endemic areas. While focusing on ancient Japan as the subject of analysis, we also refer to examples from post-medieval Japan and other countries, in an effort to apply this to comparative history. Analysis of the timing of epidemic outbreaks throughout the year revealed a correlation with the industrial structure of the society in question. We also confirmed the occurrence of epidemics from the 8th century to the 9th century, and identified periods when they occurred frequently. As a result, we have clarified the relationship between the outbreak of epidemics and the ancient national system, in line with policy trends.

研究分野：日本古代史

キーワード：日本古代史 疫病 飢饉 都市 農政 心性 環境史 比較史

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 先行研究の概要

日本古代の疫病としては、天平7年(735)・同9年(737)両年に発生した疫病が著名であり、従来の研究もこの天平の疫病を中心として進められてきた。この疫病は遣新羅使によって日本にもたらされたとみられるべき徴証が存在する。この事実は、天平の疫病以外の日本古代疫病にも一般化して適用できるものとみなされ、日本古代の疫病の主たる要因は国外からの流入であるとみなされてきた。

こうした外因論は、近年、内因論、さらに限定するならば首都因論ともいべき意見によって相対化されつつあった。いわゆる律令国家の成立によって、都鄙間交通が活発化し、都城に多くの人々が流入した結果、疫病が発生しやすくなり、さらにこの疫病が、運脚によって地方へ伝播したと考えられるようになった。

### (2) 先行研究の問題点

伝播の方向を実例に則して検討した研究の不足

外因論・首都因論いずれにしても、疫病が実際にどのように伝播していたのか、実例に則して検討した研究はほとんどなかった。

社会構造の特徴と疫病との関連性が未解明

従来の疫病研究では、当時の社会を規定していた制度全体に踏み込んだものは少なく、言及があったとしても、皮相な参照で済まされていることが多かった。多産多死を当時の社会構造の特徴として挙げる研究は蓄積されているが、それは前近代社会通有の特徴ともいえるため、より古代日本固有の構造に踏み込んだ研究が求められる。また、各時代の疫病対策がどのような思想的背景をもっていたか、という研究は極めて精密だが、「感染」という、当時の人々が明解に承知していた疫病観が、当時どのような扱いを受けていたのかは殆ど明らかでなかった。

### (3) 申請者の研究成果

まず、問題点 について、申請者は、8世紀～9世紀にかけて発生した疫病の伝播の方向を検証し、外因論で説明できる事例は特殊に属すること、古代の疫病の大流行はむしろ首都因論で説明できる事例が一般的であることを明らかにした。また、疫病の運び手としては、運脚に限らない多様な交通を想定すべきこと、また移動だけでなく、首都及びその近郊での人口密集が、疫病発生の主因として重視されるべきことを論じた。

問題点 については、当時の極端な水田依存的制度設計が疫病被害を深刻化させていたこと、古代日本は飢饉と疫病の悪循環が発生しやすい社会構造であったことを解明した。そして、8世紀の間は、この悪循環からの復興は辛うじて都度達成されていたが、9世紀初頭に破綻が生じ、疫病頻発の時代が到来したことも明らかにした。

さらに、疫病観と宗教の関連性についても論じた。疫病は感染するものという発想は、古代社会でも広く浸透していたにもかかわらず、俗信として抑圧されていた。申請者は、感染説を否定するための思想的支柱を成したのが仏教と儒教であったことを指摘した。

### (4) 残された課題

前稿で、上記の問題点 については解決することができたが、問題点 に関しては、論じ尽くせなかった点が多い。また、前稿は分析対象を9世紀までに限定していたため、それ以

後の疫死をめぐる制度上の変遷には全く踏み込むことができず、また感染をめぐる疫病観と「穢れ」意識との相互作用にも見通しを示すに止まった。

## 2．研究の目的

本研究では、制度史の視角を疫病研究に積極的に活用し、以て疫病の動態から当該社会の構造を明らかにする方法を定立することを目的とした。

## 3．研究の方法

まず、日本古代における疫病関連の史料を網羅的に収集した。古代の歴史書や法制書、古記録類はもちろん、説話集や物語類、古辞書、さらに出土文字資料まで収集範囲は広げた。

以上の収集史料をもとに、疫病の発生状況を整理するとともに、その発生の背景を語る史料を抽出して分類した。また、疫病への対処方法を語る史料も抽出して分類した。

結果、疫病の動態を決定する因子として認められた諸現象を整理した。そして、これに関連する制度・政策の動向についても調査し、疫病との間にどのような相関関係が成立していたのか、時期に応じた変化にも留意しつつ照合した。

## 4．研究成果

疫病の動態と古代社会の制度的・政策的動向との関連性を構造的に解明した。その成果は学術報告だけでなく、一般書や講演をとおして社会にも還元した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 本庄総子	4. 巻 872
2. 論文標題 戸籍小論：造籍の社会的インパクト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本庄 総子	4. 巻 428
2. 論文標題 朝集と巡行	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 続日本紀研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本庄 総子	4. 巻 167
2. 論文標題 疫病と救済	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 本庄 総子
2. 発表標題 疫病の語彙と疫病観
3. 学会等名 シンポジウム「古辞書・漢字音研究と人文情報学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本庄 総子
2. 発表標題 日本古代戸籍研究的論点与展望 為戸籍比較研究的準備
3. 学会等名 東亜比較視闡下的中国古代戸籍制度国際學術討論会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 本庄 総子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 216
3. 書名 疫病の古代史－天災、人災、そして	

1. 著者名 本庄 総子（共著）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 天変地異と病 災害とどう向き合ったのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------